

ダンプあきた

NO.383 全日本建設交運一般労働組合（略称・建交労）秋田ダンプ支部
 2018年11月5日発行 〒010-0976 秋田市八橋南1-2-29
 TEL018-823-7748 fax018-823-7751
 Email: kenkourouakita@bz03.plala.or.jp
 一人はみんなのためにみんなは一人のために、一人が一人の仲間をふやそう、労災保険に加入しよう
 田中 070 - 5324 - 4053

カマヤん 超多忙人生 ありむら潜



ダンプ冬タイヤの注文

- 再生タイヤ 21,000円 (BS)
20,500円 (ヨコハマ扱い)
- 新品タイヤ 34,600円 (BS)
32,000円 (ヨコハマ)

消費税・送料込みの価格です。注文の時、メーカーを必ずお知らせください。希望の場所に配達します。

県外への配達には運賃実費が必要です。代金は3回以内で納入します。

※在庫確認が必要なので、注文の際に組合へ問い合わせてください。

なお、ヨコハマタイヤ販売店扱いは、弘進リトレッド製の再生タイヤとなります。

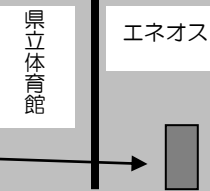
任意保険を自動車共済に切替えよう

安くて事故後のサービスも安心です。見積もりをしますので、事務所にまず電話を。

ダンプ支部第31回定期大会

とき 11月25日(日) 10時~12時30分

ところ サンライフ秋田2階 (秋田市八橋南1-8-7)
(第2研修室)



◆今回は、日曜日の日中の開催です。会場までの往復の交通費（ガソリン代）と昼食代は組合で負担します。組合員が意見を出し合い、活動方針を決める大事な機会です。みなさんの積極的な参加をお願いします。すでに出欠確認の案内をしていますので返事を出してください。

使用促進

国交省東北地方整備局発注の国道7号小繋トンネル工事（能代市二ツ井道の駅向かい・東急建設株が元請）で使用促進について元請と合意しました。現場の都合

で、早くて来年3月上旬に就労開始予定です。建交労は1日に2台就労（全体では1日5台~7台程度稼働）、のべ1,000台、単価5万円（消費税別）、約2年間の掘削土運搬（1日14回）です。6月の株主総会、その後の東北支店と東北ブロックの交渉をへて合意にこぎつけました。就労を希望する人は事務所へご連絡ください。



2基で6000億円

陸上イージスより防災でしょ



交通安全推進団体の印
 組合のプレートを出して堂々と仕事をしよう
組合加入者の紹介を！

建設アスベスト被害…ことばのミニ事典

建設現場で建材に含まれたアスベスト（石綿）の粉じんを吸い込んだため長い潜伏期を経て肺がんや中皮腫などを発症。そんなとき、元建設労働者や遺族が労災補償保険法や石綿健康被害救済法による救済を受けようにも、個別に因果関係を立証するのは困難である。国と建材メーカーに損害賠償を求める集団訴訟が各地で起こされた。2012年から18年までに判決が11回出て、10回連続で国の責任が認定された。

18年9月の大阪高裁判決では、国は1975年には建設現場の石綿の危険性を認識しながら防じんマスク着用などの義務付けを怠り、発がん性が確かになった91年にも石綿を含む建材の製造を禁止しなかったと高裁が指摘。また、国の住宅政策で石綿を含む建材が普及したとし、国の責任割合を従来の3分の1から2分の1に上げた。建材メーカーに対しても警告表示を怠った共同不法行為責任を認めた。事業主扱いにされていた「一人親方」への国の賠償責任も認められた。

原告団は「命あるうちに」と国とメーカーによる救済補償基金の創設を求めている。

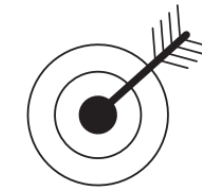
FMS…ことばのミニ事典

安倍政権の下、軍事費が過去最大を更新し続けている。軍事費の膨張は米国の対外有償軍事援助（FMS＝Foreign Military Sales）による米国製の高額武器の購入が増えているからだ。

2015年度以降、FMSによる購入が急増し18年度で4102億円、19年度要求ではイージス・アショアの導入経費も含め6917億円にのぼる。日本政府はトランプ政権の求めに応じてV22オスプレイ、無人機グローバルホーク、F35Aステルス戦闘機などを次々計上。装備品調達費に占めるFMS契約は3～4割にのぼる。

FMSは米国防総省が行う対外軍事援助プログラムの一環で、機密性の高い米国製最新鋭兵器の取得や教育訓練などを有償で提供するもの。取引輸出窓口は米政府（米国防安全保障協力局）。契約価格は米政府が見積もる「言い値」で、支払いは前払い。契約後に価格が高騰したり、納期が遅れたりすることも珍しくない。

上から目線の候補に玉城さん圧勝し 大いなる可能性



時の的

飯田光徳

社会福祉法人「野の花福祉会」

玉城デニーさんは見た目の違いからいじめられた子ども時代を振り返りこう話す。養母の「トゥーヌイービヤ、ユヌタケーネーラン（10本の指に同じ長さのものはない）」のウチナーグチにしばしば慰められたと…。他を認め尊重する多様な考えの原点がここにある。

沖縄知事選挙は玉城さんの大勝で終わった。39万6632票と、相手候補に約8万票もの大差をつけた。無党派層の7割が玉城さんに投じたという。

今回の選挙は激烈。企業団体の締め付けは凄まじかった。期日前投票で佐喜真候補への投票を「写メ」報告させることも横行。佐喜真氏は知事権限とは程遠いのに「国と連携して携帯電話の利用料の4割削減を求めていきます」との公約を掲げ、若者票の取り込みに躍起となった。この「4割削減」議論の本格化は今年8月、菅官房長官が札幌市の講演会で「4割削減の余地がある」と語ったからだ。伏線が張られていた。

「豊かになるチャンスは逃すのですか?」。これが相手候補の意見広告のスローガン。沖縄県民を「貧しき者」とし、上から目線で「貧しさから抜け出すには自公・維新の候補しかない」と。まるで「恫喝」だとの声もあがった。

「米国の血を引く僕の意見を、米国は聞かないわけではない」と玉城さんは楽観的に言い、信じる道を行くという。政府は民意を無視して何ら反省する気配はない。多様性の鎧を身にまとった知事と県民のスクラムがじりじりと安倍政権を押し。全国的な連帯が大切だ。